

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 30 日 作成

事務事業名		敬老事業実施団体助成事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連								
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康					
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加		所属課	高齢者支援課	担当者名	佐藤里佳					
	基本事業	47	高齢者の社会参加の促進		所属班	高齢者保険班	(内線)	2114					
法令根拠					合志市敬老事業実施補助金交付要綱								
予算科目	会計	1	款	3	項	1	目	4	事業連番	10436	<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	2
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度		14	年度)	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~	年度)	コスト削減優先度評価結果	11*1		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)													
【事業の内容】 各行政区等の主催で、敬老会を開催した場合に1地区10,000円(均等割)と1人当700円×75歳以上の人数(人数割)分を補助する。 【業務の流れ】 75歳以上の行政区別人口表の作成。行政区等の代表者に敬老事業申請書を送付、行政区等より計画書の提出、補助金交付決定通知書と実績報告書および補助金申請書を送付、敬老会開催した分の実績報告書・請求書の提出、補助金の支払い。 【主な予算費目】 役務費、負担金補助及び交付金(補助金)													

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 77地区、3施設。 補助金額計4,113,360円	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 20年度と同様
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 敬老会を実施する行政区等	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) 箇所 ア 敬老会開催数 ⇒ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 高齢者を祝う	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) 人 ア 75歳以上の高齢者 ⇒ イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 地域に仲間がいる。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) 人 ア 敬老会への参加者数 ⇒ イ ⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) 人 ア 老人クラブへの加入者数 ⇒ イ イ サロンへの参加者数 ⇒ 人

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 0 0 0	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計		千円	5,804	4,087	4,278	4,311	4,427	4,500		4,600
	うち指定経費		千円								
	うち時間外、特殊勤務手当		千円								
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	4	2	2		2
		延べ業務時間	時間	116	140	140	134	140	140		140
(B)人件費計		千円	461	557	557	533	557	557	557		
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,265	4,644	4,835	4,844	4,984	5,057	5,157		

指標	単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	22 年度
活動指標	箇所	85	80	90	79	90	90	90	目 標 合 計 値 画
対象指標	人	7011	4760	4912	4969	5188	5204	5300	
成果指標	人	4485	4760	4912	3062	5188	5204	5300	
上位成果指標	人	3738 (4396)8325	3700 4611	3850 (4857)9200	3330 (4700)7854	3900 (5089)9640	3950 (5205)9860	4000 (5300)9950	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
平成13年度までは町主催の敬老会を実施していたが、参加者数が増加したことで弁当等の手配等で混乱をきたすようになったため、14年度より各行政区等に対して敬老会を実施した場合には補助金を交付するようになった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
高齢化率が高くなり、対象者が多くなったので、19年度より対象年齢を70歳以上から75歳以上に引き上げた。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
平成19年度から補助金が減ったので、敬老事業のやり方を考えないといけない。
平成19年度より対象年齢を75歳に引き上げたことにより、公民館で行えるようになった。
各地区から事業計画、実績報告や補助金請求事務が大変であると言われる。

事務事業名	敬老事業実施団体助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 地区敬老事業を行うことで、地域の活性化につながる。 地区敬老事業に参加することにより、高齢者間や地域の住民と親睦を深めることができる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 地域で高齢事業を行うことにより、高齢者を敬う意識を持つ。 地域の福祉力の向上のための事業に対する必要な補助である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 事業の対象は、75歳以上の高齢者と敬老事業を行う行政区等であり、支援を行うことは高齢者の社会参加を促進するために適切である。また、高齢者を敬い長寿を祝い気持ちを育む。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 平成19年度に補助対象を、70歳から75歳(後期高齢者)以上に引き上げた。 事業の対象は、75歳以上の高齢者と敬老事業を行う行政区等であり、助成を行うことにより高齢者の社会参加を促進するためには、継続していく必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 地区敬老事業の開催継続により地域の活性化と、多くの高齢者が参加することにより高齢者の親睦を深めることができる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 敬老事業実施団体活動支援事業は他にない。 地区で敬老事業を行い続けるための手段は他にない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 平成19年度に補助金対象年齢を75歳以上に引き上げたので削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 適切な補助金交付を行うため業務時間の削減はできない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 高齢者のいる地区等で敬老事業を開催しているため公平・公正である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性については、事業の対象は、75歳以上の高齢者と敬老事業を行う行政区等であり、助成を行うことにより高齢者の社会参加を促進するためには、継続していく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 平成19年度より、補助対象年齢を75歳(後期高齢者)以上とした。 敬老事業を地区における事業として定着させる。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

各地区で敬老事業を継続するための工夫。
 事業計画、実績報告や補助金請求事務が大変であり、事務の簡素化を図る。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	1	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	2	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)